緑の地球　第192号　2020年3月15日発行　年6回・奇数月15日発行　発行：認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク
年間購読料2,000円（送料含む）定価300円　〒552-0012大阪市港区市岡1丁目5-24 小来田ビル303号　TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
郵便振替　00940-2-128465　E-MAIL：gen@gen-tree.org　URL http://gen-tree.org　Facebook https://www.facebook.com/genfcbk

緑の地球
GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

２月８日に南港野鳥園で冬のバードウォッチングをおこなった。この日に見られたのはチュウヒほか22種。

Contents

● 第26回総会のお知らせ …… Ｐ２
● GEN自然と親しむ会のご案内 …… Ｐ３
● あの人この人 …… Ｐ５
● 西伊豆５月合宿のご案内 …… Ｐ６

2020.3
192

認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク

GENに参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『よみがえる森』を見る　☆書き損じハガキ・古切手を集めて送る etc.　　★あなたのご参加を待っています！

緑の地球ネットワーク
第 26 回総会のお知らせ

第 26 回総会のご案内です。GEN の活動は今年で 29 年目を迎えます。活動地が大同から張家口市蔚県に移り、3 年がすぎましたが、毎年ツアーを派遣し、共に植樹に汗を流す協力を続けています。蔚県では村での植樹のほか、湿地保全、鳥類調査にも取り組んでいます。今春はツアーの派遣は見送りましたが、8 月はツアーをおこなう予定です。

今回の総会は記念講演は開催せず、GEN の今後の活動についてワークショップ形式で会員のみなさんの思いや意見を聞き、議論する場にする予定です。会員の高齢化、会員数の減少など、長く続けてきた団体に共通する課題を GEN も抱えています。現在の状況をふまえて、これから GEN はどうしていくべきか、みなさんと一緒に考えたいと思いますので、ぜひ総会にお越しください。

詳細は次号でお知らせします。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

【緑の地球ネットワーク 第 26 回総会】

○日程：2020 年 6 月 13 日（土）13 時 30 分～ 16 時 40 分
○会場：西区民センター第 4 会議室（大阪市西区北堀江 4-2-7　tel. 06-6531-1400　大阪メトロ千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅すぐ）
○ワークショップ：13 時 30 分～ 15 時
○総会：15 時 20 分～ 16 時 40 分
○総会終了後に懇親会を予定しています。

黄土高原スタディツアー予告

8 月のツアーを下記の日程でおこないます。秋を迎える黄土高原で植樹に汗を流しませんか。農村での交流や博物館の見学なども予定しています。

○日程:8 月 29 日（土）～ 9 月 3 日（木）5 泊 6 日
○訪問地：中国河北省張家口市蔚県（北京経由）
○定員：30 名程度
○参加費：未定（昨年実績 214,900 円）
※詳細は 5 月号でお知らせします。

イオン環境財団の助成が決まりました

公益財団法人イオン環境財団の第 29 回環境活動助成として、GEN の「中国河北省における緑化協力事業」に 145 万円の助成が決定しました。張家口市蔚県豊富村でのアンズ栽培に役立てます。

イオン環境財団にはこれまでにも山西省大同市での小学校付属果樹園の建設の助成など GEN の活動を支えていただいています。また、イオンリテールワーカーズユニオンのみなさんにも長年に渡りツアーを派遣して現地で活躍していただいています。

ＧＥＮお試し会員を始めます

GEN の活動に興味はあるけれど、入会はちょっと、という方のために、お試し会員の制度を設けました。GEN の一般会員の年会費は 12,000 円ですが、お試し会員の方には 500 円で 6 か月間会報『緑の地球』をお送りします。

GEN の活動にご興味のあるご友人等がいる方、まず手始めにお試し会員をおすすめください。

切手等寄付のご協力ありがとうございます

日頃、古切手や書き損じはがきの回収にご協力いただき、どうもありがとうございます。今年度、これまでにお送りいただいた未使用切手による寄付は 131,164 円になりました。また、書き損じはがきは 82,212 円相当の切手やミニレターに交換しました。これらは通信費として活用いたしました。また、古切手・外国コイン等は換金して 36,100 円になりました。緑化資金として活用いたします。

GEN では、書き損じはがき（官製はがき）、古切手、外国コイン、未使用の切手やテレホンカード（新品）、商品券などを回収しています。使わずにご自宅で眠っている古切手等がありましたら、GEN までお送りください。

2020 春の黄土高原スタディツアー 張家口探鳥ツアー 催行中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染が広がっています。1 月末ぐらいから、武漢では大変なことになっているらしいと心配している間にみるみる中国で広がりましたが、まだ海の向こうの話でした。ところが 2 月に入ると、横浜に寄港したクルーズ船にくわえて日本でも感染が広がりはじめ、いまや世界各地で感染が拡大しています。

GEN の春の黄土高原スタディツアーは比較的早い時点で中止を決めました。張家口市の感染数は多くありませんが、経由する北京を懸念してのことです。5 月の探鳥ツアーは、できれば調査だけでもと考えていましたが、ここまで感染がひろがってしまうと 1 か月やそこらで収束する見込みもうすく、やはり中止を決定しました。

蔚県では新しいプロジェクト地・陽眷鎮豊富村をツアーとしては初めて訪問することになっていました。探鳥ツアーでは、渡りや繁殖について新しいことが見聞できるかもしれないチャンスでした。

今回の中止はたいへん残念ですが、一日も早く事態が収束して、8 月のスタディツアー、10 月～ 11 月の探鳥ツアーが無事催行できることを願うばかりです。

GEN 事務局からお願い

春は新しいスタートの季節です。進学や就職、転勤等でこの時期にお引越しされるかたも多くおられるかとおもいます。住所、電話番号、メールアドレス等の変更がありましたら GEN 事務所までご一報いただくようお願いいたします。

GEN自然と親しむ会
参加者募集

前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑫ 琵琶湖疎水を歩く

前中代表と歩く「野の道」シリーズ、第 12 回目は琵琶湖疎水周辺を歩きます。琵琶湖疎水は京都への飲料水の提供と感慨、水運、発電を目的として明治時代に作られ、国の史跡にも指定されています。疎水に沿って桜並木が続き、桜の名所としても有名です。

今回は山科駅から琵琶湖疎水周辺を歩きます。毘沙門堂や水路閣のある南禅寺などを散策する予定です。

○日時：3 月 28 日（土）10 時～ 14 時ごろ
○集合：10 時に JR 東海道本線・湖西線「山科」駅
○解散：14 時ごろ京都市地下鉄東西線「蹴上」駅
○持ち物：弁当、飲み物、敷物、雨具、帽子、動きやすい服装、靴
○案内：前中久行さん（GEN 代表）
○参加費：500 円（保険料を含む）
○定員：20 名程度
○問合せ・申込み：3 月 25 日（水）までに GEN までお名前、生年月日、連絡先をお知らせください。
※状況により変更・中止の可能性があります。

GEN自然と親しむ会
参加者募集

泉佐野丘陵緑地「郷の棚田」活動

GEN は 2016 年より泉佐野丘陵緑地にある「郷の棚田プログラム」に参加し、活動を続けています。昨年は面積を広げ、黄花菜（ユウスゲの仲間）などを植えました。今年も棚田で作業をおこなうほか、園内を散策して自然観察を楽しみます。

○日時：4 月 11 日（土）10 時 10 分～ 14 時ごろ
○場所：大阪府営泉佐野丘陵緑地（大阪府泉佐野市上之郷 90 番地　tel. 072-467-2491）
○集合：10 時 10 分に泉佐野丘陵緑地パークセンター前（南海電鉄泉佐野駅前 9 時 40 分発、JR 日根野駅前 9 時 56 分発のいずみさのコミュニティバス（無料）に乗ると 10 時 07 分に「泉佐野丘陵緑地パークセンター」に到着します）
○案内：前中久行さん（GEN 代表）
○持ち物:作業しやすい服装･靴、軍手、タオル、帽子、弁当、飲み物、敷物、雨具
○参加費：500 円（保険料を含む）
○定員：20 名程度
○問合せ・申込み：4 月 8 日（水）までに GEN までお名前、生年月日、連絡先をお知らせください。
※状況により変更・中止の可能性があります。

報告

冬の南港野鳥園で探鳥を楽しむ

藤田　修二（GEN 会員）

２月８日、GEN 自然と親しむ会 南港野鳥園で冬のバードウォッチングをおこないました。11 名が参加しました。

関西で、あるいは大げさに言えば全国で、自然保護運動に関わる人にとって大阪南港は特別な思いがある場所だ。

ここの干潟は元々住吉浦と呼ばれ、大阪湾の中では地球を南から北へ往復する旅鳥（シギやチドリ）にとって春・秋の大事な休息場所として知られたところだ。もちろん、留鳥、漂鳥、冬鳥、夏鳥もたくさんやってくる。そこに1960 年代に埋立計画が持ち上がり、当時の学生や大学院生らが集まって 1968 年に「大阪南港の野鳥を守る会」を結成して反対運動に立ち上がった。運動は成功した。結果として大阪市長も動き、現在の野鳥園が 1988 年開園した。

運動は 70 年代初めには「自然を返せ！関西市民連合」に広がり、さらに「全国自然保護連合」に発展した。環境保護運動が公害反対から自然保護をも包含した運動に転換していく起点になったのが大阪南港だった。当時の若者たちは今や 70 歳前後になり、日本野鳥の会会長、アホウドリの世界的権威、地域に親しまれる獣医などになっている。

この日の講師の高田直俊さんは若者たちより 10 歳ほど年長の気鋭の土質工学の研究者だったが、南港に関わる中で鳥にもすさまじく詳しくなり、専門を生かして野鳥園の充実に心を砕いた。「自然を返せ！関西市民連合」はしばらくして法人格を持った「大阪自然環境保全協会」になり、高田さんはそこの第 3 代会長を長く務めた。

という次第で探鳥会は最初に高田さんから南港野鳥園の歴史の説明があり、近年ここに飛来する個体数が減ってきていることも話された。11 人の参加者はこの後展望塔や北観察所などで双眼鏡を手に、高田さんの解説を聴きながら熱心に探鳥した。残念ながらカモの姿は少なかったが、私としては高田さんに教えられて猛禽のチュウヒの飛翔、この時期珍しい（と思う）旅鳥アカアシシギが見られて満足。結局この日午前 10 時過ぎから午後 2 時までに見られた鳥は合計 22 種だった。

事務局の河本さん 2 世（♂）の健やかな成長ぶりも観察出来てよかった。

チュウヒ

食事中（？）のアカアシシギ

いますぐできるGENへの協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会費	12,000 円
家族会費（同居の家族 2 人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただけませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

＊緑化資金の 20％は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』

8 枚組・300 円（送料別途。5 セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定 NPO 法人です（期限は 2024 年 4 月 8 日まで）。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化資金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくは GEN までご連絡ください。

あの人この人

長い間お休みしていた GEN 会員を紹介する「あの人この人」ですが、数年ぶりに再開しました。今後、個性豊かな GEN 会員のあれこれを掲載していきます。

藤沼 潤一さん（沖縄県）

●自己紹介

自分が使うものは全て手作り。それは嘘だが、遠い国の料理、楽器、カバン、太陰暦、家具、池、パソコン、自転車など、物に限らず、経験則や世界観まで、自分で一度は手作りしてみる。誰かが作ったモノや基準では落ち着かない。1980 東京生まれ→ 1997 高校退学・フリーター転身（学童保育・彫刻家見習い・造園 NPO など）→ 2003 旧東京都立大学進学→ 2016 北海道大学 環境科学院 博士号取得（熱帯タケ類の個体群動態と 3 次元構造）→ 2016 琉球大学マクロ生態学博士研究員→ 2018 ヘルシンキ大学客員研究員→現在 琉球大学

● GEN での活動

2000 年春、知人が GEN 黄土高原ツアーへ参加するのに便乗して参加したのが GEN との出会い。ツアーを通して、環境問題の根は人間一人ひとりの選択や判断に起因すると感じるようになった。それ以来この問題がどう解決されるべきなのか、考えがまとまる気配はない。ツアー後、紙芝居作りなどで GEN 関東ブランチの仲間と盛り上がった。

● 2020 年－自分が暮らす社会と環境

今に始まったことではないが、最近気になること。何かのシステムが勝手に作り上げた雑務、誰の得にもならない雑務を、日本人の大半が当然のことのように毎日受け入れてる。この誰得雑務をこなすために、子供から大人まで大切な時間を費やし、何も産み出さずに消耗している。「几帳面」「丁寧」「規律」は世界が認める日本の国民性だが、「雑」「手抜き」「例外」が極端に忌み嫌われ、しばしば「効率」「最適化」「節約」のような議論をすっ飛ばして、誰得雑務を「規律」に則って「几帳面」にやってしまう。雑務に忙殺されることで、大局的な視野を失い、結果として無意味な雑務を自ら生んでしまったりする。たとえ、このような雑務を世界から一掃しても、自由な時間を謳歌できるのは束の間、すぐに色々な事業に手を広げ、間もなく忙殺の日々が再開し山積みの課題に自らが使役される。

「実はそれ、誰得雑務では？」

話を強引に進めれば、日本社会おいて環境問題が優先課題の一つにならないのは、誰得雑務に日々の生活を追われ、一人ひとりが自らの暮らしそのものを見つめ直す余裕を失っているからかもしれない。環境問題が日本社会においてどれだけ軽く見られているかは、日本の中央省庁の予算配分に占める環境省枠の小ささからもわかるだろう。そんな日本においては、草の根や市民ベースの活動が今後も有効だろう。

●わたしの「いつかやりたい」

OECMs（Other Effective area-based Conservation Measures）は、公的な保護区では取りこぼしてしまう生物多様性を、民有地などを用いて守ろうとするアプローチで、草の根の精神に通じる。私の「いつかやりたい」ことの 1 つに、市民グループによる OECMs の生物多様性観察がある。生き物好きの老若男女が集まって、お好みの分類群のアマチュア専門家となり、ターゲットの緑地や庭先に大挙する。国際的には、大規模でインテンシブに生物多様性を記載する取組みはあるが（bioblitz など）これを OECMs 用にご近所サイズで編成する。生息している生き物を虱潰しにリスト化し、それを基準に「隣の芝はそれほど青くない」や「婆さん、やっぱり温暖化だわ」と確信を持って言おう、切り取られた自然にすがって生きる身近な生き物を通して、生物多様性の未来に思いを馳せてみないか。

本の紹介

『SDGs 時代の木材産業　ESG 課題を経営戦略にどう組み込むか？』井上雅文、長坂健司、安藤範親編著、多田忠義、鮫島弘光ほか著　2,000 円＋税　出版：日本林業調査会

持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を達成するための取り組みのひとつとして環境（Environment）、社会（Society）、ガバナンス（Governance）を重視した ESG 投資が注目されています。

木材産業がどのように SDGs に貢献できるか、ESG 課題に対応できるかを考える研鑽会「木材産業における ESG」の 2 年間の活動内容をとりまとめた 1 冊です。各企業の具体的な取り組み事例や今後の課題も掲載されています。

○特別プレゼント企画

今回、著者のご厚意によりこの本を GEN に送っていただきました。興味のあるかたに読んでいただきたいと思いますので、4 名にプレゼントします。ご希望の方は GEN までお名前、ご住所をお知らせください。

大同緑化協力25年の軌跡

雑　穀

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で18回目です。（高見邦雄）

雨の少ない大同の農村では、イネはごく一部の例外を除いて栽培されません。コムギもほとんどつくりません。ではなにを栽培し、なにを食べているでしょう。

水と土壌の条件によって異なります。私はよく「黄土高原のお皿の構造」と名づけていました。大同には4つの区と7つの県がありますが、7つの県はそれぞれがお皿のような構造になっています。周囲を山に囲まれ、県と県との境界はたいてい山で、ここがお皿の縁です。県の中心部は盆地で、お皿の底にあたり、政治・経済・文化が集中し、農業以外の産業もここにあります。そして、県のなかには10～20くらいの鎮や郷があり、それぞれに小さなお皿の構造が入れ子になっています。

お皿の底は水と土壌に相対的に恵まれており、ここでは背の高くなる作物、トウモロコシ（玉米）やコーリャン（高粱）を栽培しました。食味は好まれませんが、収穫量が多いのです。とくにこの2年ほどはトウモロコシ一辺倒。アメリカとの経済摩擦による輸入減少に備えたのかもしれません。

中間の黄土丘陵の村ではアワ（穀子・小米）とキビ（黍子・黄米）が中心になります。どちらも乾燥につよいのです。アワは主にお粥にして食べます。大同では広霊産の東方亮が有名でしたが、現在の協力地の蔚県のアワは貢米といって全国に名が通っています。

キビは粒のままでは食べず、粉にしてお湯で練り、それを蒸して糕（ガオ）、おもちにして食べます。大きな固まりでできますので、箸で適当な大きさに切り、漬け物などといっしょに口に運びます。この糕を油で揚げたものが油糕で、丸いものには甘いマメの餡、細長いものには野菜の餡が詰まっています。いいお客がきたときに出すごちそうで、高と糕の音（ガオ）をかけています。

さらに高いところの山村では、無霜期が短いので、栽培期間の短いものが選ばれます。ハダカエンバク（莜麦・莜麺）やソバ（蕎麦）。ほかにたくさんの種類のマメも栽培されます。これらはみな粉に挽いて食べます。あっ、そうそう、麺というと日本では細長いものを思い浮かべますが、中国では粉にして食べるものがみな麺です。

「三十里的莜麺（サンシーリーダヨウミエン）、四十里的糕（スーシーリーダガオ）、十里的蕎麺餓断腰（シーリーダチャオミエンウードゥワンヤオ）」という言い方がこの一帯に広がっています。中国の1里は500mで、ハダカエンバクは15km、キビモチは20km歩くことができ、ソバはたった5kmで腹ぺこ、腰が抜けるというのです。慢性的に食料が不足したこの地方では、腹持ちのよさ≒消化の悪さもごちそうの条件だったのでしょう。

ところで農村では「以前はトウモロコシばかり食べていたけど、いまは豊かになってアワを食べるようになった」といい、都市では「以前はアワばかり食べていたけど、いまは白麺（小麦粉）になった」といいます。雑穀（雑糧）は人気がなかったのですが、最近は街に雑糧専門店ができ、壁にこう書かれています。「昔は貧乏のために雑糧を食べた。今は健康のために雑糧を食べる」。

参加者募集

GEN関東ブランチ　西伊豆5月合宿

5月の西伊豆では、山の常緑樹が芽生え、新緑の輝きが観るものを楽しませてくれます。今年も合宿を行います。今回は活動の範囲を「西豆」（さいず）に広げ、隣の松崎町に足を運びます。ぜひ、ふるってご参加ください。

○時期：2020年5月8日（金）17時現地集合～10日（日）12時ごろ現地解散
○場所：静岡県西伊豆町宇久須GEN関東ブランチ宿舎集合
○費用（宿泊費・食費・雑費）：一般8,000円。大学生7,000円。高校生以下5,000円
○内容：※天候などにより変更の可能性があります
◆松崎町依田邸から林道30分、山道30分ほど登った標高990ｍの長九郎山。アズマシャクナゲ（天城石楠花）が見ごろだと思います
◆宇久須芝山珪石採掘跡地における緑化活動。シキミ・アセビが活着しつつあります。
◆再生休耕田でのサトイモなどの植栽。今年は豊作を目指します。
○問い合わせ：下記の上田メールアドレスにご連絡ください
○申込：上田信 ueda@rikkyo.ac.jp
★氏名・人数・代表者の携帯電話番号を明記のこと。
○申込み締切り：5月1日（金）
※交通費は自己負担です。以下は東京からの交通手段です。
1）高速バス（新宿－修善寺）＋路線バス
2）JR東海道線（東京－三島）＋伊豆箱根鉄道＋路線バス
3）自家用車（東名沼津インターから1時間半）駐車料金不要
中部、関西からは清水－土肥のフェリーを利用する方法もあります。
※状況により変更・中止の可能性があります。

黄土高原史話 <97>

西魏文帝の前半生

谷口　義介（GEN会員）

西魏の第1代文帝（元宝炬、535～551在位）は、北魏の第6代孝文帝（471～499在位）の孫だが、他の王侯貴族と同様、激動する時代の波に浮沈した。

2歳のとき、第7代宣武帝（499～515在位）の508年、父・京兆王が冀州（きしゅう）（河北省）で反乱という事件が起こる。父は敗れて洛陽に連行、宝炬ら兄弟は宗正寺内に拘禁された。

しかし、従兄にあたる第8代孝明帝（515～528在位）の代（よ）になると、亡父の名誉が回復され、自身も正光年間（520～524）、15歳前後で直閤将軍として初めて任官。ところが、

「時に胡太后は嬖寵（へいちょう）多く、帝（宝炬）は〔孝〕明帝とともにこれ（嬖寵の臣）を誅せんと謀るに、事泄（も）れて官を免ぜらる」（『北史』巻5「魏本紀」）。

霊太后胡氏は宣武帝の妃にして孝明帝の実母だが、5歳の幼主の摂政となり、近臣・宦官を寵愛して勝手放題。しかし太后は520年に一部の王族・宦官によって幽閉されるも、523年にふたたび摂政の地位につき、孝明帝の側近を殺害した。この間に宝炬は任官し、罷免されたわけだが、まだ若く微臣だったので、免官ていどですんだのだろう。そして、これより数年後の

「武泰中（527年）、邵県侯に封ぜらる」（同上）。

ところが翌528年に、大事件が出来（しゅったい）する。19歳になっていた孝明帝は、汚辱に満ちた宮廷を正そうと、助力を外部に求めるが、それを察知した太后により毒殺。これを見て北方の豪強爾朱栄（じしゅえい）は、孝文帝の孫の長楽王（のちの孝荘帝）をかついで南下、太后一派を黄河に投げ込み殺したばかりか、王公・大臣・朝臣ら2,000余人も虐殺してしまう（本シリーズ〈83〉）。宝炬はもともと太后一派に批判的だったから、この粛清を免れた。

そして、第9代孝荘帝（528～530在位）の「永安三年（530）、南陽王に進封さ」れ、さらに従弟にあたる第12代孝武帝（532～534在位）のとき、

「孝武即位するや、太尉を拝し、侍中を加えらる。永熙二年（533）、位を太保・開府・尚書令に進めらる」（同上）。

と、ランク・アップ。さらに、

「三年（534）、孝武は高歓（こうかん）と難を構ふ。帝（宝炬）を以て中軍四面大都督と為す」（同上）。

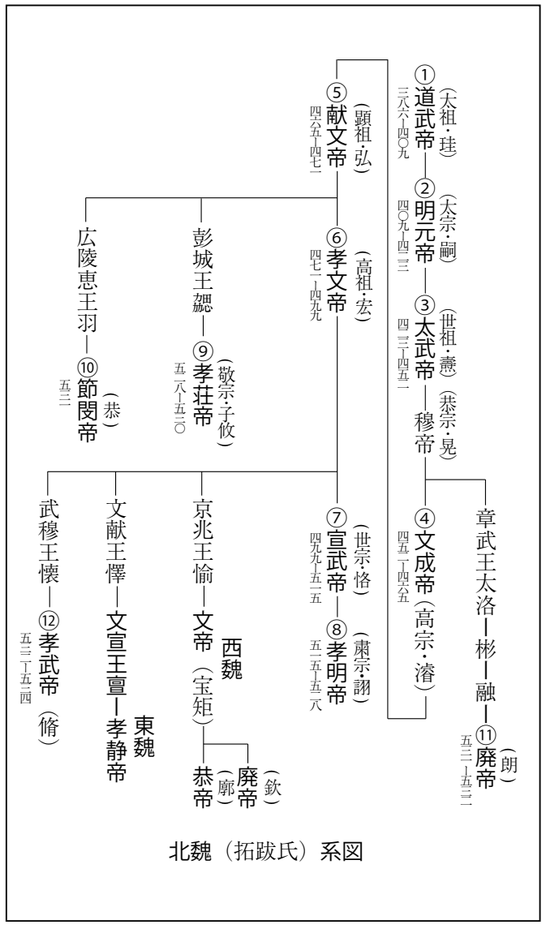
つまり、東方の実力者・高歓により擁立された孝武帝だが、高歓との関係が悪化すると、宝炬を軍事面でも重用。西方の実力者宇文泰を頼って関中（陝西省を中心とした地域）に入ったときには、太宰・録尚書事にまで栄進した。

これよりまえ、孝武帝はさきに廃位された第10代節閔帝（せつびんてい）（531在位）や競争者になりそうな同族をむやみに殺したが、その下で宝炬がナンバー・ツーの地位を保ったのは、能力がありながら、あえて目立ち過ぎぬよう身を処していたからか。

それはともかく、案の条、孝武帝と宇文泰は確執を生じ、長安に入って半年もたたないうち、25歳の孝武帝は宇文泰により毒殺される。（なお前回、『魏書』巻11の「宇文黒獺の害する所と為る」という文を引いて、「宇文泰の手の者に暗殺された」と記したが、『北史』巻5によると宇文泰のことを俗に宇文黒獺と言ったというから、孝武帝は宇文泰＝黒獺に毒殺された、とするのが正しい）。

それはともかく、代って立てられたのが元宝炬で、西魏の第一代文帝というわけだ。もちろん新皇帝など、宇文泰にとっては昨534年、宿命のライバル高歓が擁立した東魏の孝静帝（534～551在位）に対する傀儡（かいらい）の対抗馬にすぎない。

このあと、文帝にとって人生最大の悲劇が訪れる。



北魏（拓跋氏）系図

情報ひろば いろんなかたち

＊当欄掲載のイベント情報は情報提供を受けた時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
＊当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

森林ボランティア養成講座
森林大学 第36期生募集

もっと森のことを知りたい、森林で遊びたい、みなで森を守りたい、そんな人のための市民講座です。

○日程：4月15日（水）～10月14日（水）
○内容：室内講座は19時～20時45分 大阪産業創造館、野外実習は能勢地黄、箕面国有林、金剛山麓ほか
○講師：滝口敏行氏（森林インストラクター）、山本博氏（林業技士）、山崎春人（森林インストラクター）、森林大学OBほか
○受講料：35,000円（野外実習の交通費・宿泊費が別途必要）
○定員：25名（先着順、参加資格18歳以上）
○申込み・問合せ：4月13日までに下記まで　NPO法人日本森林ボランティア協会（〒530-0013　大阪市北区茶屋町2-30-5F　tel.／fax. 06-6376-8255　URL　http://www.npomori.jp　e-mail：mori@npomori.jp）

第30回 自然観察インストラクター養成講座

身近な自然のすばらしさを伝える「自然観察インストラクター」を目指して共に学びます。この講座を終了すると大阪自然環境保全協会の自然観察インストラクターとして登録され、大阪自然環境保全協会が主催・後援する自然観察会や調査活動にリーダー・スタッフとして参加できます。

○日程：4月4日（土）～11月21日（土）全27回
○講師：石井実氏（大阪府立大学名誉教授）、佐藤治雄氏（大阪府立大学名誉教授）、夏原由博氏（名古屋大学大学院教授・保全協会会長）、畠千代子氏（全国カヤネズミネットワーク代表）ほか
○参加資格：18歳以上の方。身近な自然を守るために何かやりたいと考えていること。原則すべてのプログラムに参加できること。
○受講料：29,000円（教材費、保険料を含む。宿泊講座の宿泊費・食費等は別途必要）
○定員：20名（先着順）
○内容：室内会場は主に水曜日19時～21時 大阪市立中央区民センター、野外講座は9時30分～16時、2回の宿泊講座を予定
○申込み方法：ハガキまたはe-mailに氏名（フリガナ）、性別、年齢、住所、電話番号を記入し、下記まで。
○主催・問合せ・申込み：（公社）大阪自然環境保全協会　自然観察インストラクター養成講座係（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202　tel. 06-6242-8720　fax. 06-6881-8103　e-mail：inst@nature.or.jp）

土佐文旦 いかがですか

昨年は不作で出荷できなかった土佐文旦ですが、今年はお届けできます。土佐の春の香りをお楽しみください。

A　3-4L　5kg（6-9玉）　4,200円
B　2L　〃（10-11玉）　3,700円
C　L　〃（12-13玉）　3,200円

倍量の10kg箱もあります。
送料：九州・関東・甲信越970円、関西・四国・中国880円、中部・北陸920円、東北1,230円、北海道1,430円（20kgまで）
★ご注文は下記まで
【田中農園】
〒781-7412　高知県安芸郡東洋町河内203　tel.／fax.0887-29-2500
e-mail：tanakan3@crocons.ocn.ne.jp
※売り上げの一部を寄付していただいていますので、ご注文時に一言「GENの紹介」と添えてください。

編集後記

東・西日本は記録的な暖冬で、冬の終わりに寒さが恋しくなっています。寒い季節があってこそ春の訪れが楽しみですが今年はなんとも…。（河本）